

令和7年度 進学・就職希望者に対する激励

只今、3年生の皆さんからそれぞれ伝えられる範囲で決意表明が行われました。

本校卒業直後の進路についてはそれぞれ多様ではありますが、先々では自ら生計を立てて、すなわち生活を維持するために必要な収入や手段を確保し、自立した主体として社会を生き抜いていくこととなります。そこで、一般的には、人生のいずれかのタイミングで雇用機会を求めていくことが考えられます。

この「雇用機会」ということについて、今から10年程前、アメリカ合衆国にあるオックスフォード大学のオズボーン准教授が「雇用の未来」という論文を発表し、その内容が話題となりました。

この論文では、今後10年で業務がコンピュータ化されることにより多くの仕事がなくなると予測され、47%の雇用が影響を受ける可能性があるとの試算結果が示されました。

特に、単純作業を繰り返す仕事はロボットに代替されると考えられていましたが、実際のところ、日常生活を維持するために不可欠な仕事に従事するエッセンシャルワーカーは人手不足が課題となっています。

一方で、看護師や救急救命士等とともに、代替されにくいとされていたライターやグラフィックデザイナーといった職業は、テクノロジーの進化による影響を受け始めているという動きも見られます。

いずれにしても、人工知能（AI）やロボットの進化は、社会の在り方や働き方を大きく変えようとしていると言われています。また、技術の進歩によって便利で効率的な世の中になる一方で、求められる人材像も変わってきているという指摘も出されています。

それでは、今後、どのような資質・能力やスキルを有する人材が社会において必要とされるのでしょうか。より一層複雑化・多様化するこれからの社会においては、コンピュータやロボット等の機器のほかAI等によってできることと、人間にしかできないことを見極め、両者をうまく組み合わせる力が不可欠であり、働く上においてこうした先進的な機器等との共存が重要となると推測されます。

そこで、再度、「人間だからこそ発揮できる力」を再認識し、自分自身の特性を分析し、理解を図るとともに、自分ができることや主体的に取り組みたいことを整理していくことが大切です。共感や思いやりなど、コンピュータ等が発展しても社会において必要とされる資質・能力は「人間性」が基盤となり、相手の立場に立ち考える、自身の成長のために努力する等の行動を日頃から意識していくことが欠かせません。

また、コミュニケーション能力等の人間らしい能力は、仮にコンピュータ等に仕事を代替された場合でも、持ち前の人間性を生かして別の環境で活躍する可能性も出てきます。

加えて、技術革新による産業構造の変化が進行し、今後も新たな技術が生まれていくことが想像されます。そのため、変化を拒絶するのではなく受け入れて柔軟に対応する「変化への対応力」が重要になります。変化への対応力を高めるためにも、新しいことを否定せず、まずは取り入れてみることを求められます。このように、知識や技術が日々進化する社会では、学び続けることが社会人としての価値を高めていくと考えられます。間近に迫った選考に当たり、これまでの努力や積み上げた取組を活かし、落ち着いて臨んでください。

最後に、決意を述べた3年生の希望進路の実現と社会における活躍を祈念するとともに、1・2年生にとっても3年生の今後の動きを実際に見ながら、今後の自分自身の在るべき姿を想像し、その実現に向けた具体的な行動を起こすことを期待し、本日の激励といたします。